

北村朋幹さん応援レポート
 名古屋フィルハーモニー交響楽団
 市民会館名曲シリーズ
 第58回 ベートーヴェン・ツィクルスⅢ
 2017年10月19日(木)
 日本特殊陶業市民会館 フォレストホール

ベートーヴェンの楽曲の連続演奏会

10月19日(木)に開催された、「名古屋フィルハーモニー交響楽団 市民会館名曲シリーズ 第58回 ベートーヴェン・ツィクルスⅢ」。北村朋幹さんの演奏を聴いてきた。

プログラムのテーマは、『ベートーヴェン・ツィクルスⅢ』。

「ツィクルス」とは連続演奏の意味。ある作曲家の作品を何回かの音楽会において連続して演奏する、特定の目的・意図をもって行う連続音楽会を指しているようだ。

名古屋フィルハーモニー交響楽団による『ベートーヴェン・ツィクルスⅢ』は、クラシック史上最大の作曲家といわれるベートーヴェンの足跡を、年間を通してたどるシリーズ。8シーズンぶりにベートーヴェンを取り上げており、当日の演奏会は今ツィクルス3回目。

タクトを振るのはオーストリアからの名匠ラルフ・ワイケルト氏、北村さんはソリストとしてピアノ協奏曲第2番を弾く。

名フィルのウェブサイトには「・・・第3回はオペラとシンフォニー・コンサートの両面で活躍し、同時期に『ばらの騎士』でも名フィルを指揮するオーストリアの名匠ラルフ・ワイケルトを招いての、ピアノ協奏曲と交響曲の第2番。ソリストは、その活躍がますます注目を集めている北村朋幹です」との紹介文。

2017年10月19日(木)
 6:45pm 開演 (6:00pm 開場) 6:45pm, Thursday October 19, 2017
 日本特殊陶業市民会館 フォレストホール
(名古屋市民会館 大ホール) NTK Hall Forest Hall

ベートーヴェン：序曲「コリアン」作品62
L. v. Beethoven: Overture "Corydon" Op. 62
 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第2番変ロ長調 作品19*
L. v. Beethoven: Piano Concerto No. 2 in B-flat major, Op. 19
 ベートーヴェン：交響曲第2番ニ長調 作品36
L. v. Beethoven: Symphony No. 2 in D major, Op. 36

ラルフ・ワイケルト (指揮)
Ralf Wiekert, Conductor
 北村朋幹 (ピアノ)*
Tomonori Kitamura, Piano

第58回市民会館名曲シリーズ
 ベートーヴェン・ツィクルスⅢ
The 58th Famous Works Series "Beethoven Zyklus III"

1 回券料金
 PF席：¥7,200 S席：¥5,100 Am：¥4,100 B席：¥3,100
 C席：¥2,100 Y席：¥1,000 (小学生以下は半額) *幼児はベテラン客の誘導が必要です。

1 回券発売日：2017年5月24日(水)9:00am
 お申し込み・お問合せ：名フィルチケットガイド
052-339-5666 www.nagoya-phil.or.jp

主催：公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団
 共催：日本特殊陶業市民会館
 後援：愛知県教育委員会・名古屋中・名古屋教育委員会
 公益財団法人名古屋文化芸術振興事業団・中田新聞社・東海テレビ放送
 協賛：文化庁文化芸術振興費補助金
愛知県芸術文化振興費補助金

FAMOUS
 第58回
 市民会館名曲シリーズ

会場は日本特殊陶業市民会館。長年、名古屋市民会館として親しまれ、今年開館45周年を迎えた施設である。メインのホールであるフォレストホールは、客席数約2,300席の大ホール。

人気の市民会館シリーズ、人でいっぱい
 の客席は、開演前から熱気であふれる。



優雅に瑞々しく名曲を奏でる



プログラムは、序曲「コリオラン」、北村さんがソリストを務めるピアノ協奏曲2番、オーケストラによる交響曲2番という構成。

序曲「コリオラン」で演奏会が始まる。
白髪のマエストロが振る、凛々しく気品ある指揮棒の動きに思わず見入る。

大きな拍手に迎えられて、ソリスト・北村さんが登場。ピアノ協奏曲第2番が始まる。2番と名打たれているが、ベートーヴェンの5曲のピアノ協奏曲の中で最初に作曲された曲なのだそう。抑えた感じの優雅な曲調が心地よい。ころころとキラキラと北村さんの音色が会場に響き渡る。大胆な音のやわらかさ、ささやくような音の明瞭さ。独奏部分も優美に、川の水が流れるように瑞々しく。「・・・2番と4番を自分のレパートリー曲だと昔から感じている」と以前語ってくれた北村さん、曲にのり、オケと歌い、心から味わって弾いているような様子が印象的だった。

客席の大きな拍手。マエストロも、うんうんと、北村さんの手を掲げて賞賛してくださいました。熱い拍手に応えたソリスト・アンコールでは、ベートーヴェンの「6つのバガテル」より第3番を聴かせてくれた。



Photo : Kosaku Nakagawa

馴染み深いオーケストラのみなさんと



楽屋にて。マエストロ&マエストロの奥様と。
写真ご提供：名古屋フィルハーモニー交響楽団

愛知県が地元の北村さん、高校生の頃は名フィルの定期会員。学生席に座って演奏に聴き入っていたそうだ。

名フィルの皆様、オーケストラの皆様の非常に温かい雰囲気には、そうした背景があったのかと、あらためて心が和む思いだった。

後日談。ソリスト・アンコールは予定外。続くカーテンコールに、マエストロから「弾いておいで」と、背中を押されての登場だったそうだ。

あらためて「・・・2番という曲の魅力を感じた」という北村さん、「・・・これまで何度か弾いた中で、最も作品に近づけたように感じており。これからもずっと弾き続けていきたいと思います」と話してくれた。

北村さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください！

<演奏会概要>

◆出演

[指揮] Ralf Weikert

[独奏] 北村朋幹(Pf.)

[管弦楽] 名古屋フィルハーモニー交響楽団

◆プログラム

ベートーヴェン: 序曲『コリオラン』作品62

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第2番変ロ長調 作品19*

ベートーヴェン: 交響曲第2番ニ長調 作品36

◆ソリスト・アンコール

ベートーヴェン: 6つのバガテル 作品126より第3番

◆オーケストラ・アンコール

シューベルト: 劇音楽『キプロスの女王ロザムンデ』作品26より間奏曲第3番

